

第2章 めくもいが伝わりささえあう地域づくり

第1節 地域コミュニティの推進

第2節 ボランティア団体等の育成

第3節 地域文化の振興

第4節 地域の安全確保



第1節 地域コミュニティの推進

現状と課題

今日、科学技術の高度化、産業構造の変化、都市化の進行や急速な情報化など、社会・経済は激しく変化しております。地域社会においては、人間関係の希薄化や若者の地域離れといった状況が生じており、これまで地域を支えていた交流や助け合いなどの地域コミュニティの維持が難しくなっております。

このような時代の潮流は、従来の生活様式や価値観が時代の要請に合わなくなってきたことから、だれもが人間性豊かな生活を営むことができる社会づくりのために、個人の資質向上を図り時代の変化に的確に対応していくとともに、地域においては交流会の拡大を図り相互に協力していく体制を確立していかなければなりません。

現在、本市では、「北見市市民協働推進指針(市民自治のまちづくり)」を策定し、家庭・学校・ボランティア団体・自治会などがそれぞれの役割を果たし、協働して地域づくりをしていく取り組みを支援しております。

主要施策

1

北見市自治会連絡協議会と連携し、転入者、単身者、アパートマンション居住者などに対し自治会加入や活動への参加を促進します。

2

「(仮称)公益活動促進センター」を設け、市民活動の相談や相互交流機会の提供など、活動支援の充実を図ります。

3

高齢化や活動低下が進む町内会・自治会や各種地域団体の取り組みを補完し、ネットワークを築くために、小学校区程度で組織する新たな住民協働組織の立ち上げを促進します。

4

地域住民が自治区に関する事項について協議を行うとともに、住民と行政が情報を共有し、住民が行政に参加することを目的に「まちづくり協議会」を設置しています。個性豊かな活力あるまちづくりをめざし、自治区に係わる事項について議論しやすい環境づくりに努めます。

5

単位町内会・自治会における役員のなり手の育成や未加入者に対する加入促進を図り、同じ地域で暮らす人たちが地域の課題と一緒に取り組む中で、親睦と互いに支え合う機運の醸成を図ります。また、4自治区それぞれの連合会や連絡会の今日までのあり方を尊重しながら、一体化に向けた交流研修に努めます。

第2節 ボランティア団体等の育成

現状と課題

地域社会は、地域における様々な活動を行う中で、社会のルールやマナーを学習し社会性を高めたり、学習の成果を発表する場ではありますが、都市化の進行などにより、人々が互いに交流することが少なくなり、地域社会の教育機能の低下が指摘されています。

この様に、社会における人間関係が希薄化する中、地域社会を再構築していくことは、行政だけの力ではできません。市民やグループ、NPOなどの各主体が、それぞれの特徴や能力に応じた役割を積極的に果たすことや、互いに助け合い、支え合っていくことがこれまで以上に重要になっています。

現在、市内では809の単位町内会・自治会、55の連合町内会を中心に、団体やボランティアが協力し、春の一斉清掃、防犯・防災など、広範で多様な地域活動が行われております。

今後、これら町内会・自治会やPTA等の社会教育団体、ボランティア団体、NPOなど、趣旨や目的を同じくする様々な団体の連携を強化し、地域における教育力を向上させていく必要があります。

主要施策

1

町内会 自治会を中心に、高齢者クラブ、PTA、子ども会などの地域団体の活性化を図るとともに、地域福祉活動や環境美化、防犯・防火、子ども支援など、地域の課題を解決するための体制整備を一層促進します。

2

社会福祉協議会の「ボランティア市民活動センター」を中心に、相談体制の充実や交流機会の確保、研修会やボランティア養成講座の充実など、地域福祉の担い手の育成推進を支援します。

3

ボランティア団体やNPOのメンバーを対象としたコーディネーターやリーダー育成講座、スキルアップ講座、市民向け協働セミナーを開催するなど、市民活動を担う人材の発掘・育成と協働意識の普及啓発を図ります。

4

NPO法人や市民団体による市民活動を普及するため、「広報きたみ」等を通じて活発な市民活動の事例を積極的に紹介するとともに、市民活動ホームページを開設するなど、情報発信の充実を図ります。

5

森林ボランティアの育成を図るとともに、林業体験や森林レクリエーション機会の充実などを促進します。

6

生涯学習ボランティアの協力を得て、障がい者や高齢者の学習活動を支援します。

目 標

指 標 名	現状値(H19)	目標値(H25)
ボランティア登録人数(社会福祉協議会)	1,350人	1,410人
ボランティア団体・グループ数(")	85団体	102団体
NPO団体数	29団体	35団体
町内会・自治会加入率	71%	75%
新たな住民協働組織の設立数	0団体	16団体
観光ボランティア登録数	14人	45人
文化財案内ボランティアガイド	0人	5人

第3節 地域文化の振興

現状と課題

昔から慣れ親しまれている自然景観や温泉、地場食材を利用した郷土料理、地域に根ざした祭りや行事は、それ自体が独自の魅力を持っています。さらに、住民の文化活動は、地域への誇りや愛着を深め、地域づくりを進める上で重要な役割を果たしております。

地域が持っているこのような独自の文化は、本市における文化の基盤を成しており、地域ならではの文化が豊かになればなるほど本市全体の文化も豊かになり、本市の魅力が一層高まっていくことにつながると考えられます。

そのため、住民一人ひとりが特色ある地域文化を理解し継承・発展させるとともに、地域における様々な資源を活用した新たな取り組みを行うなど、地域から積極的に発信や行動していくための環境を整備することが重要です。

主要施策

1

豊富で新鮮な地場食材を活用した、北見ならではの多様な「食文化」のブランド化を進めるとともに食文化の高さを継承し、本市が誇るオホーツクブランド認証品をはじめ優れた商品や上質な食材などを全国に向け情報発信していきます。



薄荷童子

2

魅力あふれる都市イメージや地域の活力を高めるため、既存のまつりやイベントの再編検討を進めるとともに、新たな地域文化の振興に努めます。

3

地域における多彩な芸術文化活動を推進するため、芸術文化の創造・発表の機会の充実、芸術文化活動を支える人材及び団体の育成に取り組みます。

目
標

指 標 名	現状値(H19)	目標値(H25)
東京大学公開講座参加者	100人	150人
カレーライスマラソン参加チーム	180チーム	180チーム

第4節 地域の安全確保

現状と課題

生涯を通じて安全な生活を送ることができるよう、日頃から生活安全・交通安全・災害対策などの安全に関する必要な知識を身に付け、実践的に対応できる能力を養うことは大変重要なことです。

特に、子どもたちの安全を確保することが求められる中、町内会・学校・警察等の関係機関や団体などの協力により、意識啓発や防犯意識を高め、地域社会全体で子どもたちの事件・事故を防止するための安全教育などの取り組みを進める必要があります。

また、本市では「北見市交通安全計画」に基づき交通安全対策を進めておりますが、悲惨な交通事故が後を絶ちません。平成20年の事故発生件数は430件となっており、前年度と比較して、発生件数及び死者・負傷者は減少しております。交通事故の多くは、運転者や歩行者の交通ルールやマナーの欠如に起因していることから、市民一人ひとりの交通安全意識の向上を図っていくことが重要です。

主要施策

1

子どもの犯罪被害を防ぐため、「北見市学校の安全 安心推進協議会」と連携し、「自らの安全は自ら守る」意識の高揚や知識・技術の習得を促進するとともに、不審者防犯システムの活用、「子ども110番の家」などの取り組みの充実を図ります。

2

保育園、幼稚園、学校、高齢者クラブ、職場などを通じて、各年齢に応じた交通安全教室の充実を図ります。また、高齢者の事故防止のため個別訪問を行います。

3

北見市暴力追放協議会、防犯協会や関係行政機関などと連携し、暴力追放運動を推進します。

4

児童・生徒の登下校の安全や非行の未然防止に向けて、学校や保護者、地域の連携による巡回指導活動を促進します。

5

北見交通安全研修センターを活用し、交通安全研修会・講習会を開催するとともに、交通安全指導員による効果的な啓発活動を行います。

6

防犯協会、町内会や連合町内会などと連携し、防犯パトロールなど地域ぐるみの防犯体制の強化と広報の充実を図ります。

7

北見市交通安全市民運動推進委員会などの組織の充実を図り、交通安全運動を積極的に実施し、市民の意識高揚を図ります。

目標

指 標 名	現状値(H19)	目標値(H25)
交通事故発生件数	555件/年	520件/年
市内犯罪発生件数	1,271件	1,100件